岩手医科大学報
IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

2025. 5
No. 559

主な内容

巻頭言―― 仲副学長就任挨拶
下沖医学部長就任挨拶
松政全学教育推進機構長就任挨拶
特集―― 入学試験センターの現在とこれから
令和７年度事業計画
トピックス―― ４学部合同セミナーが行われました
トピックスプラス―― 入学式が挙行されました
募金状況報告

表紙写真：学部代表者による入学生宣誓（関連記事P.11）

Iwate Medical University

巻頭言

副学長就任挨拶

副学長　仲 哲治
（医歯薬総合研究所長、研究開発・共創センター長）

春暖の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。このたび、岩手医科大学の副学長、医歯薬総合研究所長、研究開発・共創センター長を拝命致しました仲哲治でございます。このような重責を担うこととなり、大きな責任を感じるとともに、微力ながら岩手医科大学のさらなる発展に寄与する所存でございます。

私は、1992 年に大阪大学医学部第 3 内科（岸本忠三内科）に入局し、助教、准教授を経て、2006 年 4 月より厚労省の創薬研究所である国立研究開発法人　医薬基盤・健康・栄養研究所研究部長、2016 年 4 月より国立大学法人高知大学医学部臨床免疫学教授、医学部付属病院免疫難病センター長、2021 年 4 月より岩手医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科教授および医歯薬総合研究所分子病態研究部門教授に就任いたしました。そして、本年 4 月 1 日より岩手医科大学の副学長、医歯薬総合研究所長、研究開発・共創センター長を拝命致しました。

本学は明治 30 年（1897 年）に私立岩手病院に併設した医学講習所として三田俊次郎先生により創立されて以来、北東北の地域医療の拠点としての使命を果たしてきました。さらに教育・臨床・研究の三本柱を基に、次世代の医療人を育成するという重要な役割を担って来ております。これらの取り組みを支える基盤として、「医療人たる前に誠の人間たれ」、「医術は救済の根本、良医を養成して新附の蒼生を慈恵せよ」の建学の精神をもって伝統と革新の調和を大切にしてきました。私はこの伝統を尊重しつつ、新たな課題やニーズに応じた柔軟な対応と革新（イノベーション）を生み出すことが、今後の大学の発展に欠かせないと考えております。

私自身、これまで医療と教育、研究の現場に身を置き、医療人、医学研究者としての使命と教育者としての責務を深く実感して参りました。この経験を活かし、学生たちが夢や目標に向かって自信を持って進むことができる環境づくりに力を尽くして参る所存です。また、地域医療のさらなる充実と、グローバルな視野に立った教育・研究の推進にも尽力していきたいと考えております。

医療・医学は日々進化し、大学を取り巻く環境も大きく変化してきています。ゆえに、その在り方も時代とともに変わりつつあります。本学がこの変化に対応し、より良い未来を切り拓くためには、時代の変化に迅速に対応できる学内の新たな体制の構築や学内外の皆様との連携が何より重要であると考えております。教職員、学生、OB の先生方、そして地域の方々との信頼関係を深め、共に課題に挑む姿勢を大切にしたいと思っております。

最後になりましたが、この新たな役目を担うにあたり、皆様からの更なるご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。本学の益々の発展に向けて微力ながら尽して参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

医学部長就任挨拶

医学部長　下沖 収

（総合診療医学講座 教授）

この度、令和７年４月１日付で医学部長を拝命いたしました。本学および医学部が直面する多くの課題を前に、その責務の重さを痛感し、身の引き締まる思いです。

医学部では、長らく低迷していた医師国家試験合格率の向上を目指し、教務委員会、学修支援委員会を中心に、多くの教職員がたゆまぬ努力を続けております。その結果、第119回医師国家試験では、全国平均を上回るまでに改善いたしました。加えて、各学年留年者も確実に減少しております。これは、学生の努力はもとより、教職員が目標を共有し一丸となって取り組んだ成果であり、加えて医学部同窓会や父兄会の皆様のご支援の賜物でもあります。心より感謝申し上げます。今後は、なお全国水準に届いていない「ストレート国試合格率」の向上を目標に、より一層の組織的取組を強化してまいる所存です。

現在、医学教育は、アウトカム基盤型教育、統合的カリキュラム、参加型臨床実習の実現などを通じた「学修者中心の教育」へと大きな転換を求められております。本学においても、医学教育分野別評価や機関別認証評価受審を見据えた改革・改善は、猶予の許されない喫緊の課題であります。PDCAサイクルによる医学教育の質向上は、教職員の皆様に大変なご負担をおかけいたしますが、時代の変化を超えて「誠の医師」たる良医を養成していくためにも、これまで以上のご協力を賜りますようお願い申しあげます。

これまで、岩手県あるいは北東北においては医師不足・医師偏在問題が地域医療の存続を脅かし、本学の医療・教育・研究においても大きな制約をもたらしてまいりました。この春、本学新卒国家試験合格者のうち岩手県内で臨床研修を開始した者は45名（39%）でした。前年の36名（35%）からは増加したものの、県内医師増あるいは本学医師増のためには、県内残留卒業生のさらなる増加が不可欠です。臨床実習の充実や本学と附属病院の魅力向上に務めるとともに、臨床研修病院群、同窓会、岩手県とも協力しながら、さまざまな方策を推し進める必要があります。本学医学研究科入学も魅力の一つとなるよう、学部学生に対する働きかけも一層強化してまいりたいと考えております。

最後に、山積する課題に対して全力で取り組む覚悟でありますが、何分、甚だ浅学非才の身であります。教職員の皆様には、これまで以上のご協力とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

全学教育推進機構長就任挨拶
～全人的医療を支える全人的・全学教育を ～

全学教育推進機構長　松政 正俊

（生物学科 教授）

この度、理事長 祖父江憲治先生ならびに学長 小笠原邦昭先生のご高配により、全学教育を企画・運営・推進するための全学教育推進機構の取り纏め役を拝命いたしました。微力ながら、前機構長の田島克巳先生が整備された体制をフルに活用・強化し、医歯薬看護４学部を擁する本学の特色を活かした全学教育を進めて参りたいと存じますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

本学の特色を活かした全学教育としては、グループ・ダイナミクスを利用した多職種連携教育が第一に挙げられます。多職種連携（interprofessional collaboration）は複数の分野において研鑽を積んだプロがコラボレーションすることによって、質の高い成果を得て、解決が難しい問題へも対処しようというものです。従って、「まず人としての教養を高め、充分な知識と技術を修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させる」という本学の目的と使命・建学の精神（学則 第１章 第一条１項）を具体化する教育ということになります。こうした教育を効果的に行うには、４学部・教養教育センターの教員は勿論、教員と職員あるいはその他の学内外の関係者との連携が不可欠です。また、こうした教育における多職種連携を強化し、急激に進行している少子化等へも対応しつつ質の高い教育を提供し続けるには、本誌をご覧の皆様からのご意見も極めて重要です。率直なご意見等をいただければ幸いです。

特集

入学試験センターの現在とこれから

本学の入学試験センターは受験生確保に向けた広報活動のほか、適切な選抜試験の実施など、極めて重要な役割を担っています。

本号では、当センターの取り組みや展望について紹介します。

入学試験センターの役割

入学試験センターは、本学の教育方針およびアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、①入試制度の設計・評価、②入試広報の企画・運用、③選抜試験の円滑な実施という三つの役割を中心に、公平かつ戦略的な入学者選抜に取り組んでいます。

近年、全国的な少子化による受験人口の減少に加え、高校生の価値観や進路選択の多様化、スマートフォンや SNS を通じたデジタルメディアによる情報収集の一般化、大学進学に対する経済的負担感の増加、さらには地方在住の高校生を中心とした地元志向の高まりなど、受験生を取り巻く環境は大きく様変わりしています。これに伴い、志望動機の形成や大学選びの基準も大きく変化してきており、従来の広報手法や選抜制度だけでは十分に対応しきれない状況が生まれています。

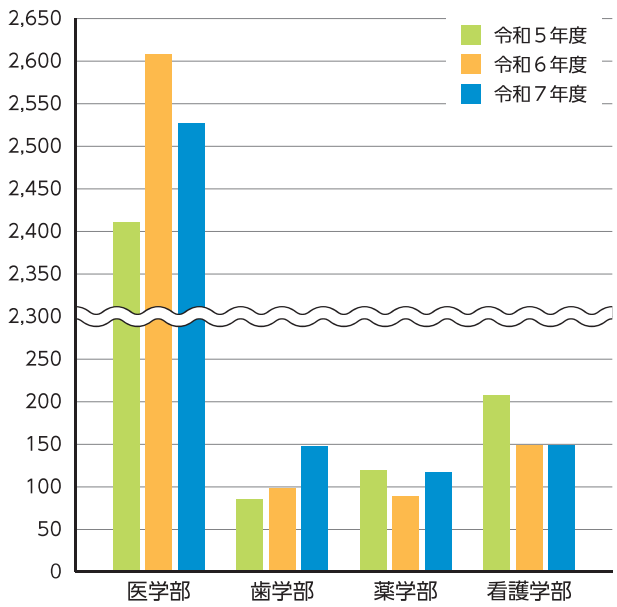
こうした状況を踏まえ、本学においても、より戦略的かつ多角的な視点から入学者確保に取り組む必要があります。単に志願者数を確保するだけでなく、本学の教育理念を共有し、卒業後に地域・社会に貢献できる多様な人材を安定的に確保していくことが、入学試験センターの重要な使命となっています。

■ 令和７年度入学試験

令和７年度入学試験における各学部の志願者・合格者・入学者の状況は表のとおりです。志願者数について、医学部は 2,526 名と依然高水準を維持しました。歯学部は 148 名、薬学部は 117 名といずれも前年を上回り、看護学部は 149 名で昨年と同数となっています。歯学部と薬学部の増加は、後述の学納金減免制度に加え、Web サイトや SNS を活用した広報強化が後押ししたと分析しています。

学　部	募集定員	志願者	合格者	入学者
医 学 部	130	2,526	272	130
歯 学 部	57	148	93	38
薬 学 部	50	117	86	41
看護学部	95	149	129	78

令和７年度入学試験結果



（各学部の志願者数）

入学試験センターの取り組み

入学試験センターでは、受験生や保護者の皆さまに本学の教育内容や魅力を分かりやすく発信し、安心して本学を進学先に選んでいただけるよう、多彩な広報活動に取り組んでいます

■ オープンキャンパス

毎年７月末に開催しているオープンキャンパスには、昨年度 936 名が来場しました。模擬授業や教員による学部説明、在学生との懇談ブースなどを通じて、本学での学びやキャンパスライフを体験してもらいました。なお、今年度は７月 26 日（土）、27 日（日）の開催を予定しています。

オープンキャンパス（キャンパスモール）

■ 進学相談会

遠方の受験生には、全国各地で開かれる進学相談会に参加し、昨年度は約 350 組の受験生・保護者と個別相談を行いました。さらにオンライン会議システムを活用した個別相談も実施し、場所にとらわれないサポート体制を整えています。

進学相談会（東京会場）

■ 情報発信

デジタル広報にも力を入れ、本学 Web サイトや SNS で入試情報、施設紹介、在学生インタビューなど多様なコンテンツを発信しています。こうした取り組みにより、受験生が本学をより身近に感じられる環境づくりを進めています。今後は動画コンテンツの拡充や在学生主体の発信企画にも取り組み、受験生目線の広報を一層強化していきます。

WEB オープンキャンパス HP

YouTube チャンネル

学納金減免制度の導入と成果

入学試験センターでは、経済的な理由により進学をあきらめる受験生を一人でも減らすため、経済的負担の軽減策を検討し、より多様な層の進学を支援する制度設計に取り組んでいます。その一環として、令和７年度より歯学部と薬学部において、新たに「特待生制度」と「同窓生学納金減免制度」を導入しました。

■ 特待生制度

入学試験で特に優秀な成績を収めた受験生を対象に、授業料などを減免する制度です。学力に秀でた学生に安心して学びを続けてもらうことを目的とし、入学後も一定の成績基準を満たすことで支援が継続されます。

■ 同窓生学納金減免制度

本学卒業生の三親等以内の親族が入学する場合に、学納金の一部を減免するものです。この制度は、経済的支援にとどまらず、本学の建学精神や教育理念が次世代へと受け継がれていくことを期待するものです。

これらの制度については、学内外に対してわかりやすい説明を徹底し、広報活動も強化しました。その結果、歯学部と薬学部では志願者・入学者ともに前年を上回る成果が得られました。今後も制度の運用状況を検証しつつ、支援内容の充実と情報発信の強化を図り、より多様な受験生が進学の機会を得られる環境づくりに取り組みます。

選抜制度の透明性と学内連携の推進

本学では、学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜など、多様な方式を設け、さまざまな資質を持つ受験生のニーズに応えています。選抜基準と評価方法は Web サイトや募集要項で明示し、公平性と透明性の確保に努めています。

■ 入学者選抜の基本方針

各学部の教育目標に沿った人材を育成するため、透明性・客観性・公平性を重視し、以下の区分で学生を選抜します。

入試区分	目的と概要
学校推薦型選抜	出身高等学校長の推薦に基づき、調査書のほか、大学教育を受けるために必要な知識等を評価し、入学者を選抜します。
総合型選抜	一般選抜等では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学への志望動機が明確で意欲的な入学者を選抜します。
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「一般選抜」「医学部入学試験利用選抜」「大学入学共通テスト利用選抜」の選抜区分により、入学者を選抜します。
特別選抜	入学者の多様性を確保する観点から、海外での学習経験や社会での実務経験を持つ者を対象に、入学者を選抜します。
編入学者選抜	他の専門領域を学び、高い目的意識を持った者を対象とし、入学者を選抜します。

入試運営は、入学試験センターを中心に、学内各部署との緊密な連携のもとに行われています。試験会場の設営、受験生の誘導、トラブル対応など、円滑な試験実施に向け、各部署が一体となって万全の準備体制を整えています。

さらに、入試制度や広報戦略の継続的な改善に向け、入試の専門的な知識と経験を有するアドミッション・オフィサーを中心に、学内各部門との連携を強化し、データ分析に基づく制度設計に取り組んでいます。アドミッション・オフィサーは、入試に関する詳細な調査・分析、高等学校との連携強化、効果的な学生募集戦略の企画・立案、オープンキャンパスや進学相談会などにおける広報活動の実施といった、多岐にわたる重要な役割を担っています。今後も学内外の連携を深め、データに基づく制度見直しと透明性の向上を図り、公平で信頼性の高い選抜体制を維持していきます。

今後の課題と方向性

社会全体として、大学入試は知識・技能の評価にとどまらず、思考力・表現力・主体性など、多面的な能力を重視する方向へと変化しています。しかし、こうした力を適切に測るための仕組みや環境の整備は、依然として模索が続いており、各大学においても不断の見直しが求められています。

本学においても、少子化の進行に伴う志願者数の減少が見込まれる中、多様な選抜制度や広報手法の柔軟な見直しと、より戦略的な入試運営の構築が急務となっています。こうした背景を踏まえ、入学試験センターでは、以下の 4 点を重点的に取り組んでまいります。

- ■多様な資質を評価する選抜制度の再設計と、より確実な試験運営体制の構築
- ■ SNS や動画を活用した広報展開と、ターゲットに応じた情報発信の最適化
- ■大学案内の刷新とオープンキャンパスの魅力向上による受験生との接点拡大
- ■出願システムや受験生向け Web サイトの継続的な改善とユーザビリティ向上

下沖入学試験センター長
（総合診療医学講座 教授）

これらの取り組みを通じて、受験生の皆様が安心して本学を志望できる環境づくりと、時代の変化に対応した柔軟で持続可能な入試運営の実現を目指してまいります。教職員の皆様におかれましては、今後とも入試業務へのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

省エネ推進委員会だより

令和６年度 省エネ活動の実施結果について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただき誠にありがとうございます。
令和６年 12 月から令和７年３月末まで実施しました「冬季省エネ活動」の活動結果についてご報告いたします。

■ 冬季省エネ活動概要

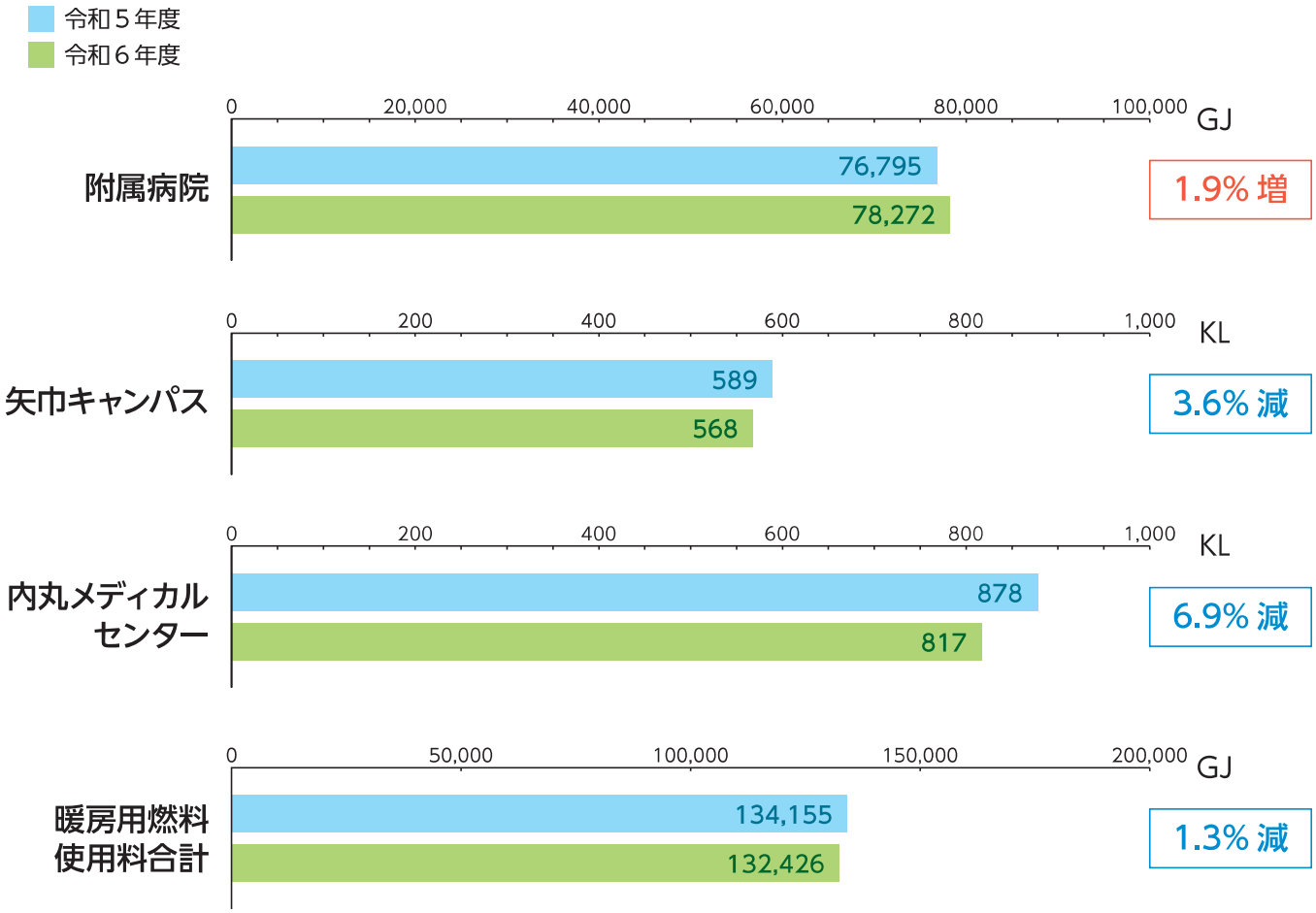
《実施期間》令和６年 12 月１日～令和７年３月 31 日
《削減目標》主要３施設（矢巾キャンパス・附属病院・内丸メディカルセンター）の暖房用燃料の使用量を前年度比で１％削減する
《取　　組》①暖房設定温度の調整（室温 22℃を目安）②空調運転時間の調整 ③啓発ポスターの掲示
④施設利用状況の巡視 ⑤月毎の取り組み状況報告

■ 冬季省エネ活動実施結果

主要３施設合計の暖房用燃料の使用量は前年度比で 1.3％の削減となりました。施設別の使用量については、内丸メディカルセンターは前年度比 6.9％の削減、矢巾キャンパスは前年度比 3.6％の削減、附属病院は前年度比 1.9％の増加となりました。

今冬は、３月を除く各月の月平均気温が低めに推移したほか、２月にはまとまった降雪があり暖房用燃料の使用量が増える状況にありましたが、昨年度に引き続き主要３施設の暖房用燃料使用量の合計については目標を達成することができました。

本活動へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。



省エネ活動はできることからひとつずつ、皆様のご協力をお願いいたします。

令和７（2025）年度

学校法人岩手医科大学

事業計画

１．策定方針

本法人は、最新の生命科学に対応した「教育・研究・診療」を実践し、将来の更なる発展のため、総合移転整備計画を策定し、開学以来拠点としていた内丸キャンパスから矢巾キャンパスへ大学施設の段階的整備を進め、2019 年度には国内有数の規模を誇る附属病院が竣工、内丸メディカルセンターとともに開院に至り、医療系総合大学の新たな歴史を歩み出した。

本来、2020 年度以降は病院の運営を軌道に乗せ、内丸メディカルセンター新棟建設並びに内丸跡地の再開発に向けた事業資金を確保しつつ、事業を推進する計画であったが、附属病院建設に係る借入金返済が始まった中、学生収容定員未充足に伴う学納金収入の減少や新型コロナウイルス感染症の拡大による診療・手術制限等に伴う医療収入の減少、急性期医療を取り巻く環境の変化や人口減少、少子高齢化、更には近年の物価高騰等に伴う支出の増大が法人経営に甚大な影響を与え、各事業の見直しを余儀なくされた。

また、2024 年４月には医師の働き方改革が施行され、医師不足が顕著な本県においては、附属病院と内丸メディカルセンターの２病院の診療体制を維持しつつ、地域の医療機関へ医師を派遣することは、医師個人の負担が非常に大きく、加えて、内丸キャンパス建物群は築 50 年が経過し、老朽化が著しい状況にある。

このような状況を踏まえ、本法人は、高度医療の提供、医育機関の役割、地域医療に貢献する体制を維持しつつ、将来を見据えた持続可能な診療体制の構築を図り、永続的に法人を運営していくため、2026 年４月１日を目途に、歯科及び一部の医科を除いた内丸メディカルセンターの診療機能を附属病院へ集約することが最良であるとの判断に至った。

私立大学における経営環境が一層厳しさを増す中、本法人では、地域・社会の信頼を得て、安定的且つ継続的な財政基盤を構築していくことが重要であることから、「Vision2025-2029 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定した。

2025 年度は経営・財務改善に向けた諸計画を全学を挙げて確実に実行するとともに、質の高い教育・研究・診療活動の実践、国家試験合格率の向上、学生の確保、医療収入の増収、外部資金の獲得、そして恒常的経費の抑制等に努めることとし、以下の事業を実施する。

２．主要な事業計画

※掲載内容は、「令和７（2025）年度事業計画書」を抜粋したものです。
詳細は、本学ホームページ（情報公開→令和７年度）をご覧ください。

１．経営・財務改善関係

①経営・財務改善に向けた取り組み
②附属病院（本院）への診療体制の集約化
③先進的イノベーション創薬研究所（仮称）の設立

２．教育・研究関係

①大学院医学研究科：入学者確保に向けた活動の推進
②医学部：学修支援体制の強化による医師国家試験合格率と進級・卒業率の向上
③大学院歯学研究科：教育課程の充実と大学院生の確保
④歯学部：教育の質の向上に向けた教育改革の推進
⑤歯学部：入学生確保の取り組みの推進
⑥大学院薬学研究科：教育の質向上と学生確保
⑦薬学部：入学者確保に向けた薬学部の魅力・発信力の強化

⑧薬学部：教育の質向上と学修成果・教育成果の可視化
⑨看護学部：看護学部の発展に向けて教育研究基盤を向上させていくための取り組み
⑩全学的教育改革の支援活動
⑪教学ＩＲ（Institutional Research）の推進
⑫教育設備（マルチメディア教室ノートパソコン）の更新
⑬実習関連機器等（教養教育センター）の年次更新
⑭教養教育、準備教育に係る教育見直しと高大連携の改善
⑮シミュレーション教育環境の整備
⑯研究機器の戦略的な更新と共用推進、研究施設スタッフのスキルアップ、研究施設の利用者数増加のためのサービス内容の周知
⑰産学官連携を通じた研究成果の社会還元の推進
⑱学生支援体制の推進
⑲矢巾キャンパスの教育環境の整備
⑳病理標本の火葬処分
㉑入試制度改革の推進と戦略的な学生募集活動
㉒学生のキャリアビジョンを拡げ、希望する就職を実現するための支援
㉓医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持

3．補助事業及び委託事業関係

①日本災害医療ロジスティクス研修
②災害時実践力強化事業
③災害医療研修会
④いわての師匠事業
⑤東北メディカル・メガバンク計画
⑥岩手県高度救命救急センター運営事業
⑦岩手県ドクターヘリ運航事業
⑧総合周産期母子医療センター運営事業
⑨岩手県こころのケアセンター事業
⑩いわてこどもケアセンター運営事業

4．診療関係

①病院経営改善に向けた取り組みの推進
②医療の質向上に向けた取り組みの推進
③医師の時間外労働規制に対する取り組みの推進
④医療情報システムの一部機能追加・部分改修
⑤管理栄養士増員による増収計画

5．管理運営関係

①ガバナンス・コードに基づく法人運営の推進
②事業活動資金の確保に向けた募金活動の展開
③デジタル技術（ワークフローやＲＰＡ等）を活用した事務局の業務効率化の推進
④勤怠管理システムの導入
⑤中長期財務計画の策定
⑥適切な予算の策定と予算統制
⑦財務状況のモニタリングと分析
⑧固定資産の適正な管理及び有効活用の推進
⑨情報セキュリティ対策
⑩内丸メディカルセンターの移転・統合に伴う内丸サーバ室の移設検討
⑪ネットワーク及びサーバの持続可能な保守体制の構築
⑫標準的な内部監査手続きの徹底による法人運営の効率化に資する内部監査の実施

6．施設設備関係

①内丸地区活用検討の推進
②矢巾キャンパス図書館災害（図書落下）防止対策

本法人は、2025 年度から 2029 年度にかけての主要計画を取りまとめ、2025 年 3 月に「Vision 2025-2029　学校法人岩手医科大学中期計画」を策定しました。

令和 7（2025）年度事業計画は、この中期計画に基づき策定しています。詳細は、学内限定ホームページ（職員の皆様へ）で閲覧できますので、職員の皆様におかれましては、ぜひご覧ください。

名誉教授称号授与式が挙行されました

３月31日（月）、本部棟４階大会議室において、名誉教授称号授与式が行われました。

式では、祖父江理事長が病態薬理学講座臨床医化学分野 那谷 耕司 教授、小笠原 邦昭 学長（前 脳神経外科学講座 教授）、超高磁場ＭＲＩ診断・病態研究部門 佐々木 真理 教授、病理診断学講座 佐藤 孝 教授に名誉教授の称号を授与し、これまでの大学への貢献に対して感謝の言葉を送りました。

後列（左から）：酒井副学長、河野薬学部長
前列（左から）：那谷名誉教授、小笠原名誉教授、祖父江理事長、佐々木名誉教授、佐藤名誉教授

辞令交付式が挙行されました

４月１日（火）、大堀記念講堂において、令和７年度新入職員辞令交付式が挙行され、99名が岩手医科大学の一員となりました。

式では新入職員を代表し、薬剤部薬剤師の半田翔大さんが祖父江理事長より辞令書を受け取りました。西７階Ａ病棟看護師の佐藤ひかるさんは「高い倫理観を持ち、感謝の気持ちを忘れず、質の高い医療を実践し、多くの笑顔を守れるよう、努力していきたい」と力強く誓詞を述べました。

■採用者内訳

事務員2名、薬剤師2名、臨床検査技師4名、診療放射線技師1名、理学療法士4名、作業療法士1名、言語聴覚士3名、臨床工学技士2名、視能訓練士2名、歯科衛生士2名、調理師1名、教員1名、技術員1名、看護師73名

新入職員誓詞

日本病院薬剤師会 武田泰生会長による特別講義が開催されました

４月16日（水）、キャリア支援センター薬学部会特別講義として、一般社団法人日本病院薬剤師会会長 武田泰生先生を講師に迎え、薬学部４・５年生を対象とした講義「薬剤師の軌跡と未来」が実施されました。

講義では、薬剤師を取り巻く環境の変化をふまえ、今後求められる職能や役割について語られ、学生たちは真剣な表情で耳を傾けていました。

終了後には、「自分自身の未来像がより具体的に見えてきた」との声も多く聞かれ、進路を考えるうえで大きな学びとなる機会となりました。

武田日本病院薬剤師会会長と受講者の集合写真

４学部合同セミナーが行われました

４月19日（土）、矢巾キャンパスにおいて、４学部合同セミナーが開催されました。この科目は、４学部最終学年の必修科目で専門職連携教育の集大成として位置づけられ、事前に提示された症例を複数の学部の混成チームによりPBL（問題基盤型学習）形式で検討するものです。

当日は、チームで患者さんへの治療方針等について議論し、インフォームドコンセントを想定して患者さんへの説明内容を検討しました。専門知識を修得した学生が患者さんの立場に立ち、他学部の学生と共に治療方針の検討を行うことで、医療現場における多職種連携の重要性について理解を深めました。

チーム作業（事前学修の内容プレゼン）

TOPICS PLUS

入学式が挙行されました

４月９日（水）、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールにおいて、令和７年度岩手医科大学入学式が挙行され、本法人役員や教職員をはじめ、多数の保護者が出席されました。今年度は大学院医学研究科博士課程20名・修士課程５名、歯学研究科博士課程６名、薬学研究科博士課程１名、医学部130名・３年次編入学１名、歯学部38名・２年次編入学４名、薬学部41名、看護学部78名の入学生を迎えました。

令和７年度岩手医科大学医療専門学校の入学式は、４月５日（土）、歯学部４階講堂で挙行され、本学校の教職員、在校生、保護者が出席されました。今年度は33名の入学生を迎えました。

医療人としての道の第一歩を踏み出した入学生は、期待に胸を膨らませているようでした。

■岩手医科大学入学式

トーサイクラシックホール岩手大ホールで挙行した入学式

入学生宣誓

在学生歓迎の辞（薬学部３年 宮 怜奈）

会場の様子

■医療専門学校入学式

小林校長による入学許可宣言

入学生集合写真

表彰の栄誉

法科学講座法医学分野の熊谷 礼子 研究員に 岩手県警察本部長から感謝状が贈呈されました

髙宮教授、熊谷研究員、田中捜査１課長、森川助教

法科学講座法医学分野の熊谷 礼子 研究員は、長年にわたり岩手県のDNA鑑定に貢献したとして３月19日、岩手県警察本部長感謝状を授与されました。

DNA鑑定は血縁関係や身元を明らかにするために行われますが、熊谷研究員は東日本大震災で被災し遺体で見つかりながら身元がわからない方の鑑定を行っています。熊谷研究員は腐敗・焼損などで状態が悪い検体に対して有用なミトコンドリアDNAの解析を行っており、東日本大震災における身元不明遺体のうち熊谷研究員の鑑定で毎年数名程度をご遺族にお返しすることができています。一方で今も岩手県の犠牲者のうち47名の身元が判明しておらず県も「震災身元不明遺体ミトコンドリアDNA型鑑定事業費」を組み対応に乗り出しており、熊谷研究員もご遺族にご遺体をお返しできるよう、今後も鑑定を続けます。

（文責：法科学講座法医学分野 教授 髙宮 正隆）

中央臨床検査部の菅原 ひより 臨床検査技師が 日本超音波医学会東北地方会学術集会で優秀演題賞を受賞しました

菅原臨床検査技師、黒田特任教授

この度、日本超音波医学会第69回東北地方会学術集会（令和７年３月２日現地開催）において「優秀演題賞」を受賞しました。演題は、「慢性型Budd-Chiari症候群の急性増悪の一例」です。Budd-Chiari症候群とは肝静脈や下大静脈の狭窄や閉塞により生じる疾患のことで、多くは慢性の経過をとりますが、突然の肝静脈の狭窄や閉塞によって急性症状を呈することもあります。今回、超音波検査を用いて急性増悪したBudd-Chiari症候群の経過を観察し得た症例を経験し、発表させていただきました。超音波検査は低侵襲な検査でありながら、体内の状態を高解像度かつリアルタイムに観察することが可能であり、病態評価や経過観察に有用であると考えます。

最後に、受賞にあたり御指導、御協力いただいた皆様方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

（文責：中央臨床検査部 臨床検査技師 菅原 ひより）

岩手医科大学認定ベンチャー「ONSSI 株式会社」が 県内のコンテストで受賞しました

岩手医科大学認定ベンチャー企業であるONSSI株式会社（代表取締役：鈴木悠地）が、岩手県の産学連携等の取り組みを支援する「第22回いわて産学連携推進協議会（リエゾン-I）研究開発事業化育成資金」の贈呈企業に選出されました。さらに、北日本銀行が主催する「第４回ニュービジネスコンテスト」では、最優秀賞を受賞しました。これらのコンテストでは、知的財産や産学連携の専門家らが事業性や社会的インパクトなどの観点から評価し贈呈企業を決定しています。同社は、医歯薬総合研究所分子病態解析部門の仲哲治先生らが世界に先駆けて同定した、膵臓癌を主体とする消化器癌が持つ癌抗原を標的とする、新規抗がん剤（抗体薬物複合体）の社会実装を目標としています。現在、同薬剤の米国での治験開始を目指し、事業開発および臨床開発を進めています。本学では、研究成果の事業化と社会還元を重要な使命と位置づけ、大学発のイノベーションの推進と支援に取り組んでまいります。

（文責：ONSSI株式会社 代表取締役、内科学講座 リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野 特任講師 鈴木 悠地）

新任教授の紹介

令和７年４月１日就任

内科学講座
リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野

藤本 穣（ふじもと みのる）

昭和43年８月３日
大阪府茨木市出身

研究テーマ
サイトカインシグナルと免疫疾患

主な著者論文
・SOCS- １トランスジェニックマウスにおける胸腺細胞の発達障害とＴ細胞の恒常性異常（J Immunol. 2000;165（４）:1799-806.）
・IL- ６シグナルの遮断は炎症性 Th17 応答を阻害しマウス自己免疫性関節炎を抑制する（Arthritis Rheum. 2008;58（12）:3710-9.）
・LRG は関節リウマチの活動性評価に有用なバイオマーカーである（Mod Rheumatol. 2024 Aug 20;34（５）:1072-1075.）

趣味
スポーツ観戦

教職員への自己 PR
令和７年４月付で内科学講座リウマチ･膠原病･アレルギー内科分野教授を拝命いたしました。当分野初代教授の仲哲治先生は私の大学院生時代のサイトカイン研究の指導教員であり、以後現在に至るまで私の上司としてご指導をいただき、このたび私が二代目として大役を務めさせていただくことになりました。リウマチ・膠原病・アレルギー疾患の分野は研究と臨床とが混じり合う非常にホットな領域で、病態解明研究に基づく新薬の開発が相次ぎ、ステロイドだけに頼る治療が過去のものになりつつあります。しかし治療にあたる内科系のリウマチ専門医は県内まだまだ不足しています。若い学生や医師の方々にぜひ積極的にこの分野へ飛び込んでいただき、免疫難病の日進月歩の診療ならびにその謎に迫る研究を担っていただけたらと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

主な経歴
平成５年３月　大阪大学医学部　卒業
平成５年６月　大阪大学医学部附属病院第三内科　研修医
平成９年４月　大阪大学医学研究科内科系（第三内科）博士課程　入学
平成13年４月　日本学術振興会　特別研究員（COE）
平成15年３月　大阪大学医学部附属病院　医員
平成18年３月　独立行政法人医薬基盤研究所　主任研究員
平成29年１月　国立大学法人高知大学教育研究部医療学系臨床医学部門　准教授
令和３年４月　岩手医科大学内科学講座膠原病･アレルギー内科　准教授
令和７年４月　現職

令和７年４月１日就任

緩和医療学科

木村 祐輔（きむら ゆうすけ）

昭和42年５月９日
栃木県宇都宮市出身

研究テーマ
緩和ケアの推進、地域緩和ケア連携の構築、終末期医療

主な著者論文
・Tumor necrosis factor-alpha production after esophageal cancer surgery: differences in the response to lipopolysaccharide stimulation among whole blood, pleural effusion cells, and bronchoalveolar lavage fluid cells. Surg Today 1999;29:10-5.
・Randomized study of low-dose versus standard-dose chemoradiotherapy for unresectable esophageal squamous cell carcinoma. Cancer Sci 2015;106:407-12.
・在宅医療連携環境の構築における都道府県がん診療連携拠点病院の役割 . 日在宅医療連会誌 . 2015;p44-45.

趣味
サイクリング、カヤック、スポーツ観戦

教職員への自己 PR
このたび、令和７年４月１日付で緩和医療学科の教授を拝命いたしました。平成 26 年４月の同学科開設以来、特任教授として 11 年間、皆様の温かいご支援を賜りながら、緩和ケアの普及・推進に微力ながら尽力してまいりました。本邦が超高齢化社会へと進む現代におきまして、緩和ケアのさらなる充実が喫緊の課題であることは言うまでもありません。緩和ケアはまさにチーム医療の象徴であり、医療系総合大学である本学がその力を最大限に発揮できる領域であると確信しております。これまでの経験と知識を活かし、皆様とともに緩和ケアの発展に貢献できるよう、一層の努力を重ねてまいる所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

主な経歴
平成６年３月　岩手医科大学医学部　卒業
平成６年４月　岩手医科大学第一外科学講座　入局
平成10年10月　能代山本組合総合病院　外科医員
平成12年10月　岩手医科大学高度救命救急センター　助手
平成14年10月　岩手医科大学第一外科学講座　助手
平成21年10月　岩手医科大学第一外科学講座　講師
平成26年１月　岩手医科大学緩和医療学科　特任教授
令和７年４月　現職

令和７年４月１日就任

医学教育学講座医学教育学分野

髙田 亮（たかた りょう）

昭和50年４月23日
岩手県盛岡市出身

研究テーマ

医療プロフェッショナリズムならびに多職種連携教育の実践と教育手法開発

主な著者論文

・膀胱癌に対する術前化学療法の効果をゲノム全体の遺伝子発現プロファイルで予測 (Clin Cancer Res. 2005;11: 2625-36)
・日本人集団における前立腺癌発症に関わる５つの新しい遺伝子領域をゲノムワイド関連解析で発見 (Nat Genet. 2010;42: 751-4)
・日本人集団における前立腺癌発症関わる 12 の新しい遺伝子領域をゲノムワイド関連解析で発見 (Nat Commun. 2019;10: 4422)
・ロボット支援手術の訓練に使う VR シミュレーターで医学生が経験する 3D 酔いについて解析 (BMC Med Educ. 2021;49: 498)

趣味

旅行、キャンプ、庭仕事

教職員への自己 PR

本年４月より医学教育学講座・医学教育学分野教授を拝命致しました。当初は本学泌尿器科学講座で、主に前立腺癌の基礎・臨床研究を進めておりましたが、小笠原学長のご高配により本講座に異動し医学教育学の研鑽を積んで参りました。もともとは熱意のみで語っていた医学教育でしたが、そこには深い理論があることを知り、新しい発見の日々です。国内外の最新の医学教育研究を基盤に、本学ならではの特長を活かしたカリキュラムを開発・実施し、質の高い医学教育の実現を目指して参ります。皆様と力を合わせ、本学の医学教育をさらに発展させていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

主な経歴

平成12年３月　岩手医科大学医学部　卒業
平成12年４月　岩手県立中央病院　臨床研修医
平成14年４月　岩手医科大学大学院医学研究科　入学
平成14年11月　東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター　客員研究員
平成18年３月　岩手医科大学大学院医学研究科　修了
平成18年４月　岩手医科大学泌尿器科学講座　助教
平成21年４月　独立行政法人理化学研究所　客員研究員
平成22年４月　岩手医科大学医学部泌尿器科学講座　講師
令和２年４月　岩手医科大学医学部泌尿器科学講座　特任准教授
令和５年４月　岩手医科大学医学部医学教育学講座　准教授
令和７年４月　現職

令和７年４月１日就任

歯科保存学講座歯周療法学分野

佐々木 大輔（ささき だいすけ）

昭和51年２月３日
東京都杉並区出身

研究テーマ

歯周組織再生、歯周病原細菌、歯周医学

主な著者論文

・Association Between Mastication Pattern, Periodontal Condition, and Cognitive Condition—Investigation Using Large Database of Japanese Universal Healthcare System（Big Data Cogn. Comput. 2025 9（2）, 43; https://doi.org/10.3390/bdcc9020043）
・Immunoelectron microscopic analysis of dipeptidyl-peptidases and dipeptide transporter involved in nutrient acquisition in Porphyromonas gingivalis（Curr. Microbiol. 2023 16;80（4）:106）
・Utility of a hemoglobin test of gingival crevicular fluid:A multicentre, observational study（Oral Dis. 2023 https://doi. org/10.1111 /odi.14536）

趣味

ソロキャンプ、読書、Ｆ１観戦

教職員への自己 PR

八重柏隆教授の後任として歯科保存学講座歯周療法学分野の教授を拝命いたしました本学歯学部 33 期生の佐々木大輔です。歯周病は歯の喪失の主因であると同時に、糖尿病や心血管疾患をはじめとする全身疾患との関連が注目されるなど、歯科医学の枠を超えた学際的研究が求められる領域です。これまで培ってきた基礎研究および臨床経験をもとに、歯周疾患の病態解明と新規治療法の開発に取り組むとともに、次世代を担う人材の育成にも力を注いでまいります。今後ともご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成15年３月　岩手医科大学歯学部　卒業
平成19年３月　岩手医科大学大学院歯学研究科　修了（歯科保存学第二講座専攻）
平成19年４月　岩手医科大学歯学部歯科保存学第二講座　医局員（現歯科保存学講座歯周療法学分野）
平成20年４月　岩手医科大学歯学部歯科保存学第二講座　助教（現歯科保存学講座歯周療法学分野）
平成27年４月　岩手医科大学歯学部歯科保存学講座　歯周療法学分野　講師
令和元年12月　岩手医科大学歯学部歯科保存学講座　歯周療法学分野　准教授
令和５年10月　岩手医科大学歯学部歯科保存学講座　歯周療法学分野　特任教授
令和７年４月　現職

令和７年４月１日就任

歯科補綴学講座
冠橋義歯・口腔インプラント学分野

今 一裕（こん かずひろ）

昭和54年９月９日
青森県五所川原市出身

研究テーマ

骨再生、インプラント周囲炎、ダイナミックナビゲーション手術、デジタル歯科

主な著者論文

- ３D-printed custom tray for maxillofacial implant assisted partial denture Journal of Prosthodontics 2024（DOI: 10.1111 jopr.13850）
- Efficacy of a novel membrane comprising a copolymer of L-lactic acid and glycolic acid in osteoblasts in vitro. Dent Mater J. 2021 40(5):1196-1201.
- Autologous micrografts from the palatal mucosa for bone regeneration in calvarial defects in rats: a radiological and histological analysis. Int J Implant Dent. 2020 25; 7 (1): 6

趣味

旅行、スキー

教職員への自己 PR

歴史ある歯科補綴学講座の冠橋義歯・口腔インプラント学分野の教授を拝命いたしまして、大変身の引き締まる思いをしております。前任の近藤尚知教授にお声がけをいただきまして、岩手医科大学に赴任してまいりました。皆様方のお力添えをいただきながら、日々の臨床、教育、研究に邁進しているところでございます。主な研究テーマは、骨増成・骨移植材、インプラント周囲の感染制御となります。今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成17年３月　東京医科歯科大学歯学部歯学科　卒業
平成21年３月　東京医科歯科大学 大学院 医歯学総統研究科
　　インプラント･口腔再生医学分野　修了　歯学博士
平成23年４月　東京医科歯科大学 歯学部附属病院
　　インプラント外来　医員
平成24年10月　ジュネーブ大学 歯学科 口腔外科学分野
　　Senior Researcher
平成30年４月　東京医科歯科大学 歯学部附属病院
　　インプラント外来　特任助教
令和４年11月　岩手医科大学 歯学部 補綴･インプラント学講座
　　補綴･インプラント学分野　准教授
令和５年４月　岩手医科大学 歯学部 歯科補綴学講座
　　冠橋義歯･口腔インプラント学分野　准教授
　　（講座再編および名称変更）
令和７年４月　現職

令和７年４月１日就任

病態薬理学講座臨床医化学分野

野口 拓也（のぐち たくや）

昭和47年６月１日
千葉県千葉市出身

研究テーマ

・創薬標的の創出を目指したシグナル伝達研究
・がんや炎症性疾患を対象とした創薬シーズの探索

主な著者論文

- LLPS of SQSTM 1 /p62 and NBR 1 as outcomes of lysosomal stress response limits cancer cell metastasis. (Proc. Natl. Acad. Sci. USA., 2023;120:43)
- Gefitinib initiates sterile inflammation by promoting IL- 1 β and HMGB 1 release via two distinct mechanisms.(Cell Death Dis., 2021; 1 :49).
- Nuclear-accumulated SQSTM 1 /p62-based ALIS act as microdomains sensing cellular stresses and triggering oxidative stress-induced parthanatos. (Cell Death Dis., 2018; 9 :12)

趣味

旅行、釣り

教職員への自己 PR

本年４月より薬学部病態薬理学講座・臨床医化学分野教授を拝命いたしました。これまで、教育面では薬学部において医療薬学の教育に従事してきましたが、今後はより一層、質の高い教育の提供に取り組む所存です。研究面においては、これまで推進してきた基礎的な創薬基盤研究を基に、臨床応用を目指したトランスレーショナルリサーチを推進したいと考えております。ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成13年３月　東京医科歯科大学歯学部　卒業
平成13年４月　東京医科歯科大学 医歯学総合研究科博士課程　入学
平成17年３月　東京医科歯科大学 医歯学総合研究科博士課程　修了
平成17年４月　東京大学･大学院薬学系研究科　CREST研究員
平成18年４月　東京大学･大学院薬学系研究科　助教
平成21年４月　ローザンヌ大学生化学研究所　研究員
平成24年５月　群馬大学生体調節研究所　助教
平成26年10月　東北大学薬学研究科　准教授
令和７年４月　現職

理事会報告　（３月定例－３月24日開催）

１．２024年度補正予算について

２．私立学校法等の改正に伴う規程改正について

2025年４月１日より施行される改正私立学校法及び寄附行為との整合等を図るため、寄附行為施行細則、運営会議規程、役員報酬等の支給基準及び監事監査規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日　2025年４月１日）

３．ガバナンス・コードの実施状況に関する報告書の作成について

各部門等で点検した本法人ガバナンス・コードの実施状況を2024年度の報告書として取り纏め、本学ホームページ上へ公表することについて審議し、この後開催された評議員会の諮問を経て最終決定した。

４．中期計画の策定及び2025年度事業計画について

５．２025年度予算について

６．役職者の選任について

歯学部副学部長　八重柏　隆（再任）
学生部長　木村　英二（新任）
附属内丸メディカルセンター長　下沖　収（再任）
（任期　歯学部副学部長、学生部長は2025年４月１日から１年間、附属内丸メディカルセンター長は同日から内丸メディカルセンターの閉院までの期間）

７．教員の人事について

内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野　教授
　藤本　穣（前　同分野　准教授）
緩和医療学科　教授
　木村　祐輔（前　同学科　特任教授）
医学教育学講座医学教育学分野　教授
　髙田　亮（前　同分野　准教授）
歯科保存学講座歯周療法学分野　教授
　佐々木　大輔（前　同分野　特任教授）
口腔医学講座予防歯科学分野　准教授
　佐藤　俊郎（前　同分野　講師）

（発令年月日　2025年４月１日）

８．公益通報者の保護等に関する規程の一部改正について

通報手段及び届出様式を変更することとし、公益通報者の保護等に関する規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日　2025年４月１日）

９．就業規則等の一部改正について

2025年４月１日より施行される改正育児・介護休業法への対応の他、現状に即した内容とすることとし、職員就業規則、職員の育児休業等に関する規程、リフレッシュ休暇取扱規程、臨時職員就業規則及び専門研修医就業規則を一部改正することを承認した。

（施行年月日　2025年４月１日）

10．岩手医科大学学則の一部改正について

2025年度の教育課程再編に伴い、別表１を変更することとし、岩手医科大学学則を一部改正することを承認した。

（施行年月日　2025年４月１日）

11．組織規程の一部改正について

教養教育センター情報科学科医用工学分野は主に情報・統計学を担っていることから、医学統計情報学分野に名称を変更すること、また、監事監査規程の改正に伴い、監事室を新設するとともに、内部監査室に関する文言を整備することとし、組織規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日　2025年４月１日）

12．附属病院規程の一部改正について

特定機能病院の承認要件となる病院機能評価の認定において、臨床指標を定め、診療の質改善に活用することが重要とされているとともに、2024年診療報酬改定においてはＤＰＣ機能評価係数に医療の質向上に向けた取り組みが評価されることから、医療の質・安全管理部門に医療の質管理部を設置することとし、附属病院規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日　2025年４月１日）

13．役員等に係る賠償責任保険契約の取り扱いについて

14．所有土地の売却について

雫石グラウンドは運動場用地として昭和60年に土地交換により取得したが、平成23年の東日本大震災により地割被害が発生し、復旧はしたものの近年は使用実績がないことから、売却の調査及び検討を進めていたところ、購入の申入れがあったため、売却することを審議し、この後開催された評議員会の諮問を経て最終決定した。

15．理事の職務担当区分について

理事会報告　（４月定例－４月28日開催）

１．理事の競業について

２．役員の責任限定契約について

３．役職者の選任について

医学部副学部長　平　英一（新任）
医学部副学部長　前田　哲也（新任）
医学部副学部長　前沢　千早（新任）
（任期　2025年５月１日から2028年３月31日医学部長の任期満了日まで）

４．教員の人事について

医学部整形外科学講座　准教授
　田島　吾郎（前　同講座　特任准教授）
医学部整形外科学講座　特任准教授
　佐藤　光太朗（前　同講座　講師）

（発令年月日　2025年５月１日）

５．附属病院長候補者選考会議外部委員の選任について

岩手県立中央病院長　臼田　昌広（新規）
岩手県企画理事兼保健福祉部長　野原　勝（更新）
（任期　2025年４月１日から2028年３月31日）

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第27回目のご芳名紹介です。（令和７年２月１日～令和７年３月31日）

■ 法人・団体等（２件）

＜ご芳名のみ＞
有限会社　IINE（岩手県紫波郡）
株式会社　シミズ・ビルライフケア（東京都中央区）
（順不同、敬称略）

■ 個人（１件）

＜ご芳名のみ＞
新津　勝宏（名誉教授）
（敬称略）

区　分	申込件数	寄付金額（円）
圭　陵　会	522	242,608,220
在学生ご父母	398	95,830,000
役員・名誉教授	54	155,380,000
教　職　員	47	7,460,000
一　般	29	488,673,572
法人・団体	323	330,705,481
合　計	1,373	1,320,657,273

（令和２年９月１日～令和７年３月 31 日現在）

定年を迎えられた教職員の皆様、永い間お疲れ様でした

本年３月31日付で定年を迎え退職された皆様には、永い間岩手医科大学発展のためにご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。

４列目	齊藤 法彦　小林 正和　那谷 耕司　出口 博之　遠藤 利明　佐藤 孝　八重柏 隆　田島 克巳　髙橋 智輝
３列目	最上 玲子　小岩 恵美子　森 恵　里見 せつ子　齋藤 知子　川代 千恵子　遠藤 直子　相馬 祐子
２列目	平野 久美子　工藤 尚子　立花 広美　髙島 みゆき　宮守 優　佐々木 栄子　森 薫　山岸 明子　川崎 かおる
１列目	山本事務局長　森野附属病院長　河野薬学部長　佐々木 真理　小笠原 邦昭　祖父江理事長　酒井副学長　小林歯学部長 遠藤看護学部長　佐藤看護部長

岩手医科大学報編集委員

祖父江憲治	畠山　正充
影山　雄太	藤村　尚子
松政　正俊	髙橋　　慶
齋野　朝幸	阿部　　俊
藤本　康之	杉下　佳子
白石　博久	石森　由樹
佐藤　泰生	髙橋　淳美
佐藤　　仁	伊藤　祥子
藤澤　美穂	稲垣　学人
塩山　亜紀	髙橋美季子
細田留美子	松田　悠史

編集後記

新年度が始まりましたね。今号では、節目を迎えた方々のご挨拶や、入学試験センターの特集をお届けしました。入学式の宣誓の写真からは、希望と決意があふれ、元気がもらえます。

皆さんの部署には、新しい仲間が加わりましたか？新しい仲間を迎えるこの季節は、自分の初心を思い出す良い機会です。どんなに経験を積んでも、初日の緊張や、誰かに教わった感謝の気持ちは、常に大切にしていきたいですね。

これからも、岩手医科大学の「いま」を伝える大学報が、多くの人に届き、共感を呼ぶことを楽しみにしています。

（編集委員 塩山 亜紀）

岩手医科大学報　第559号

発行年月日／令和７年５月31日
発　行／学校法人岩手医科大学
編集委員長／祖父江　憲治
編　集／岩手医科大学報編集委員会
事務局／総務部　総務課
TEL. 019-651-5111（内線5452、5453）
FAX. 019-907-2448
E-mail:kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印　刷／河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp